

FormPat 5

環境設定ガイド

2017/09/01



Copyright(C) 2017 Digital Assist Corporation. All rights reserved.

目次

目次	2
はじめに	3
必要システム	4
IIS のインストール	5
データベースのインストール	13
FormPat プログラムフォルダの作成	21
FormPat 承認期限監視サービスオプションのインストール	22
IIS の設定	23
FormPat データフォルダの作成	30
データベースの設定	34
システム環境ファイル(control.config)の設定	35
FormPat の動作確認	37
統合 Windows 認証について	38
OCR オプションについて	40
インポートオプションについて	41

はじめに

本書では、電子フォームとワークフローシステム FormPat 5（以下、FormPat）を稼働させるために必要な環境設定の方法を説明します。

本書は、FormPat Ver.5.1.0.0 以降を対象としています。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標です。

必要システム

サーバー	
オペレーティングシステム	Windows Server 2016 / 2012 R2 / 2012 / 2008 R2 SP1 / 2008 SP2 ※最新の Windows Update を適用してください。
データベース	SQL Server 2016 / 2014 / 2012 / 2008 R2 / 2008 それぞれの Express を含む。 ※ Express はデータベースサイズ、同時接続ユーザー数等に制限があります。マイクロソフト社の HP を参照してください。
クライアント	
オペレーティングシステム	Windows PC - Windows 10 / 8.1 / 8 / 7 iPad – iOS Tablet – Windows 10, Android
ブラウザ	Windows PC – Edge, Internet Explorer(以下、IE) 11, Chrome, Firefox iOS – Safari Windows tablet – Edge, Chrome Android tablet - Chrome
注意点	
サーバーのホスト名	0~9、a~z、A~Z、-(アンダーバーではなくハイフン)の文字に制限します。 ホスト名の文字制限は RFC で定義されています。 制限以外のホスト名で運用される場合は、IP アドレスでアクセスしてください。

IIS のインストール

本章では、Windows Server 2016 について記述します。

IIS(インターネット インフォメーション サービス)のインストールを行います。既に IIS の環境が整っている場合は、次章へ進んでください。

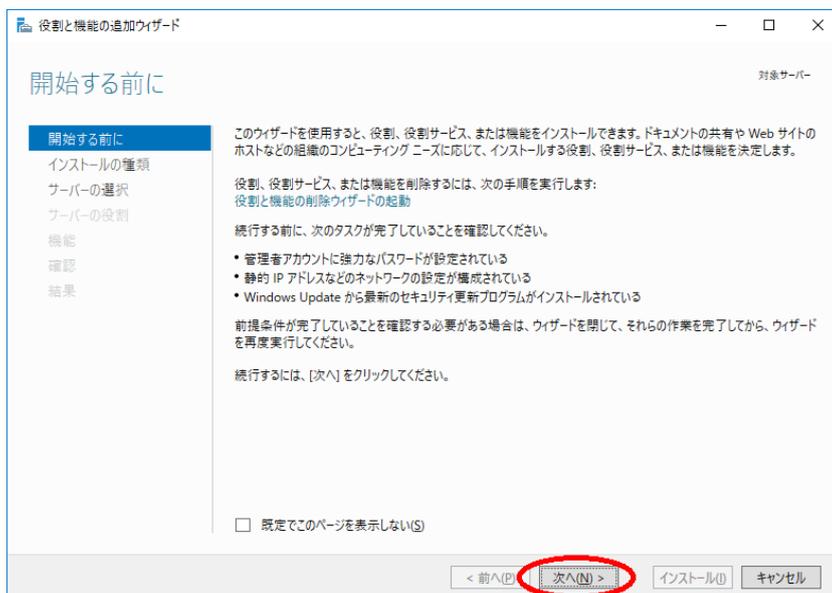
※Windows Server 2016 は標準でインストールされていません。

1. [サーバー マネージャー]を起動します。

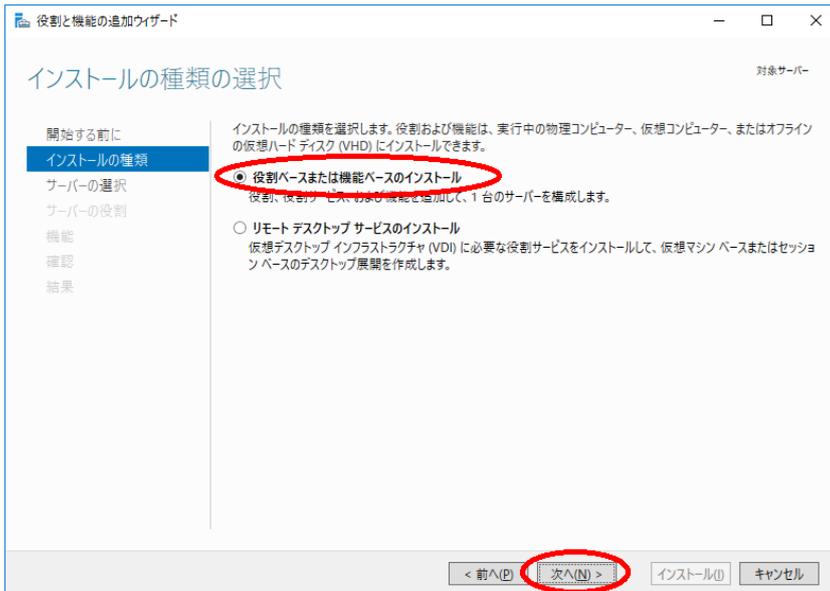
サーバーマネージャーでは、[役割と機能の追加]をクリックします。



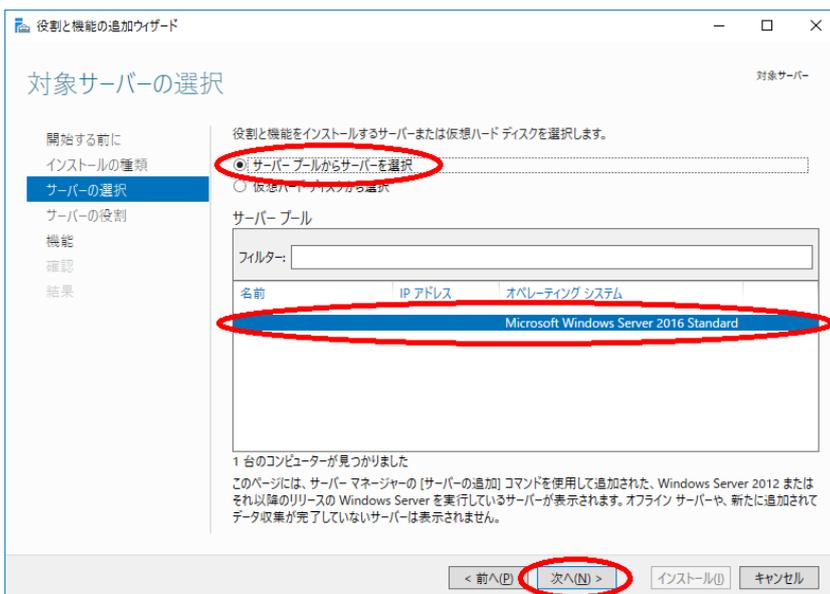
2. 開始する前にでは、[次へ>]をクリックします。



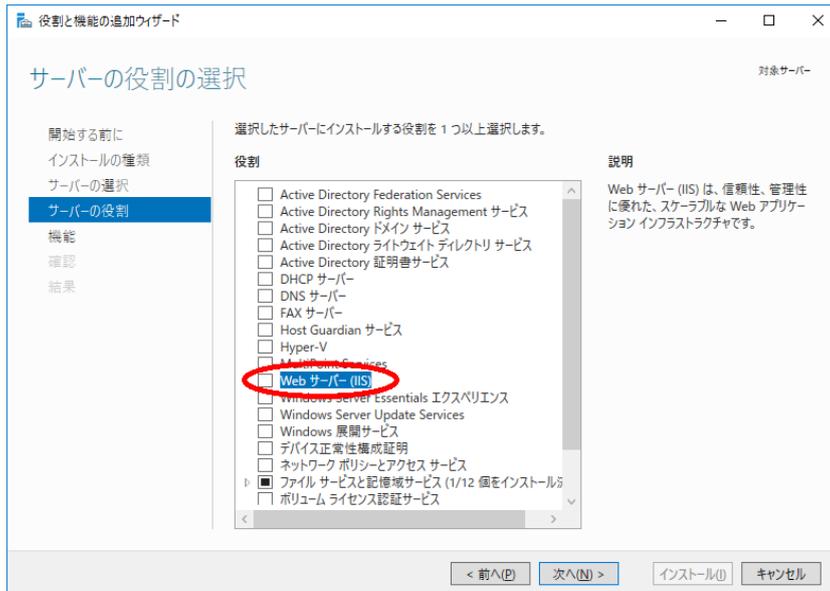
3. インストールの種類を選択では、[役割ベースまたは機能ベースのインストール]を選択し、[次へ]をクリックします。



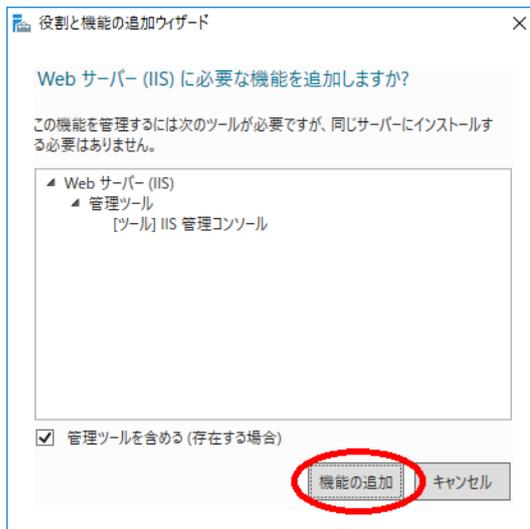
- 対象サーバーの選択では、[サーバープールからサーバーを選択]を選択、該当サーバーを選択し、[次へ]をクリックします。



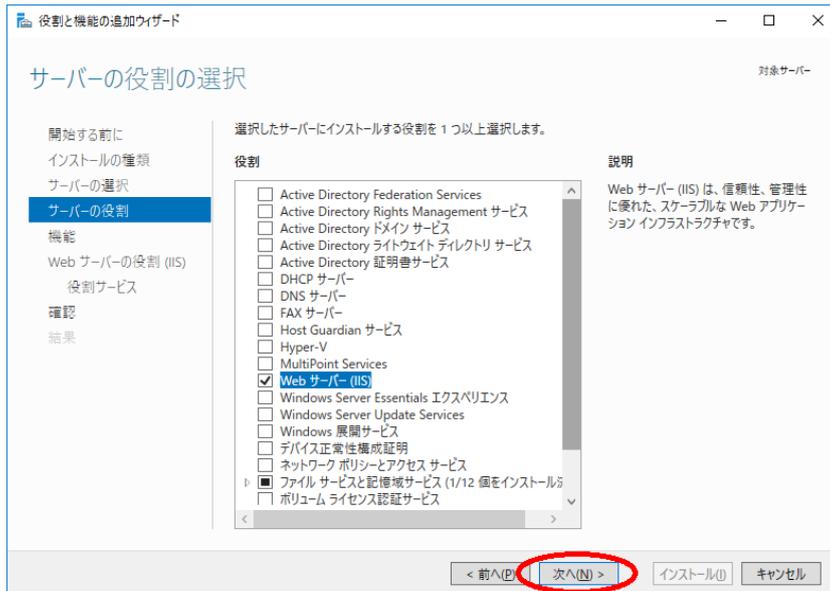
- サーバーの役割の選択では、[Web サーバー(IIS)]のチェックボックスをクリックします。



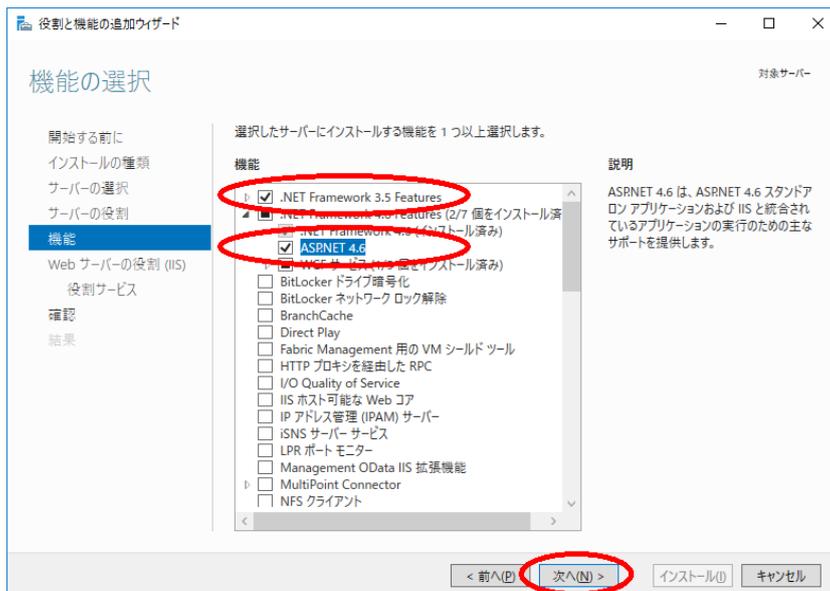
6. ポップアップ画面では、[機能の追加]をクリックします。



7. サーバーの役割の選択に戻ると、[次へ>]をクリックします。



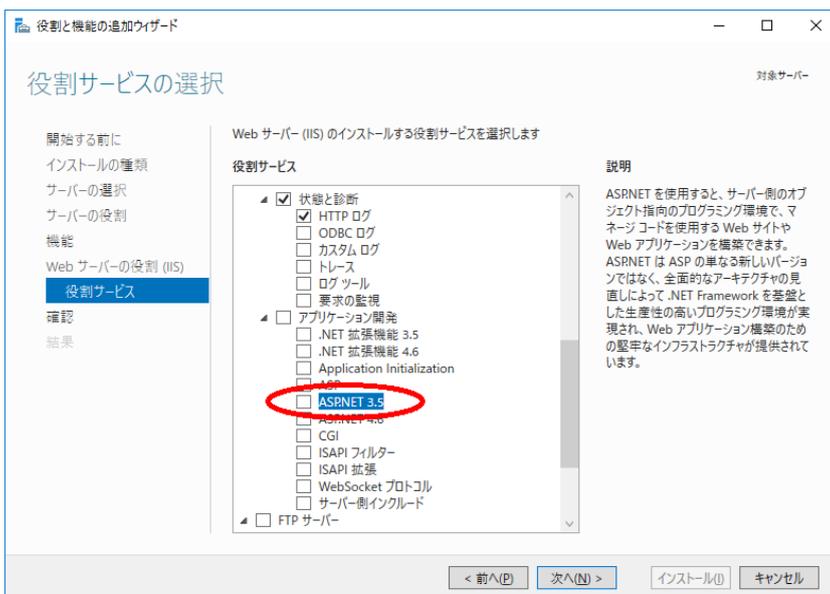
8. 機能の選択では、[.NET Framework 3.5 Features]のチェックボックスをクリック、および [.NET Framework 4.6 Features]を展開、[ASP.NET 4.6]のチェックボックスをクリック後、[次へ]をクリックします。



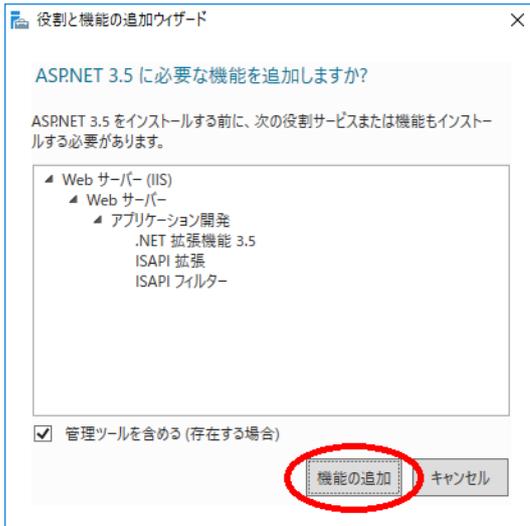
9. Web サーバーの役割(IIS)では、[次へ]をクリックします。



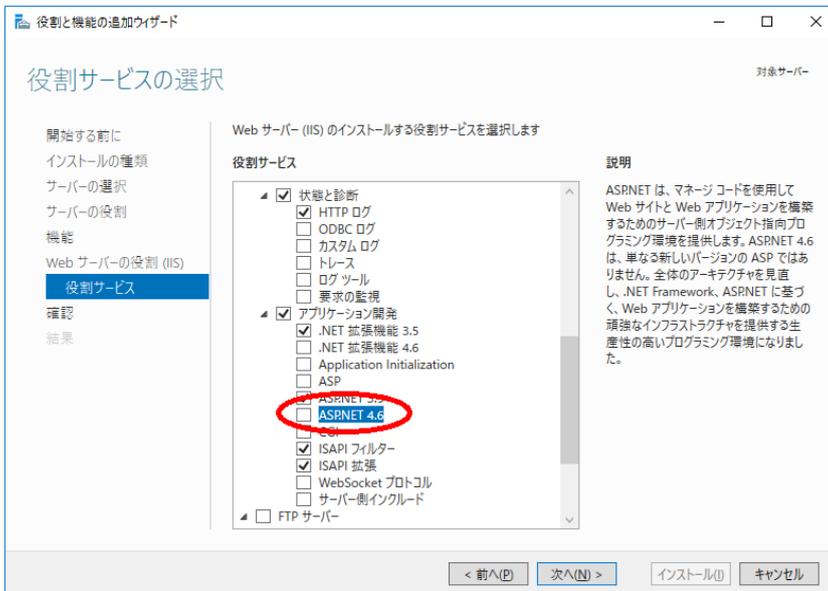
10. 役割サービスの選択では、[アプリケーション開発]を展開、[ASP.NET 3.5]のチェックボックスをクリックします。



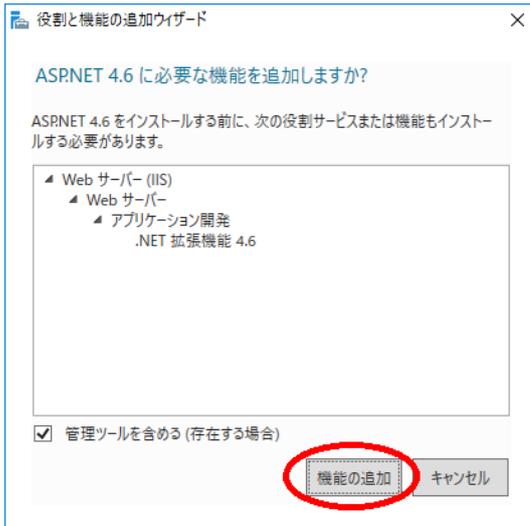
11. ポップアップ画面では、[機能の追加]をクリックします。



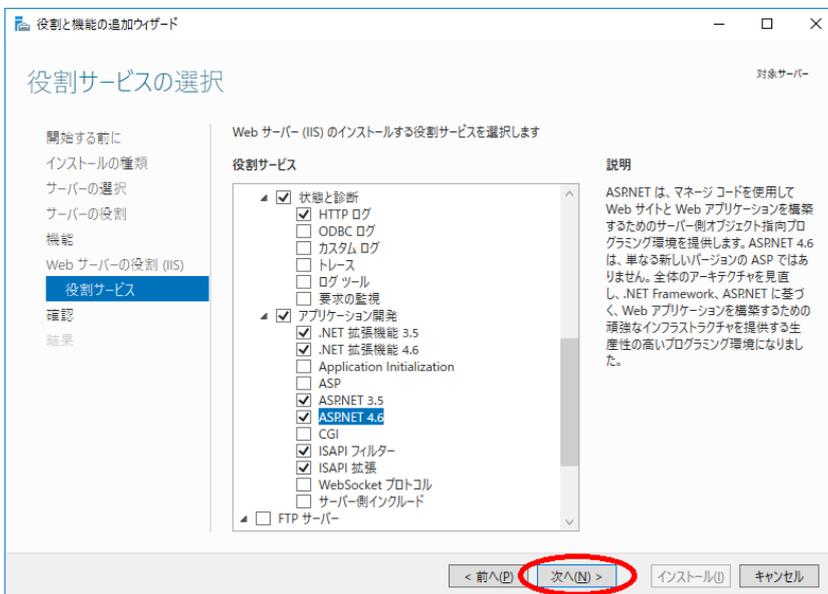
12. 続けて、同じく[アプリケーション開発]から[ASP.NET 4.6]のチェックボックスをクリックします。



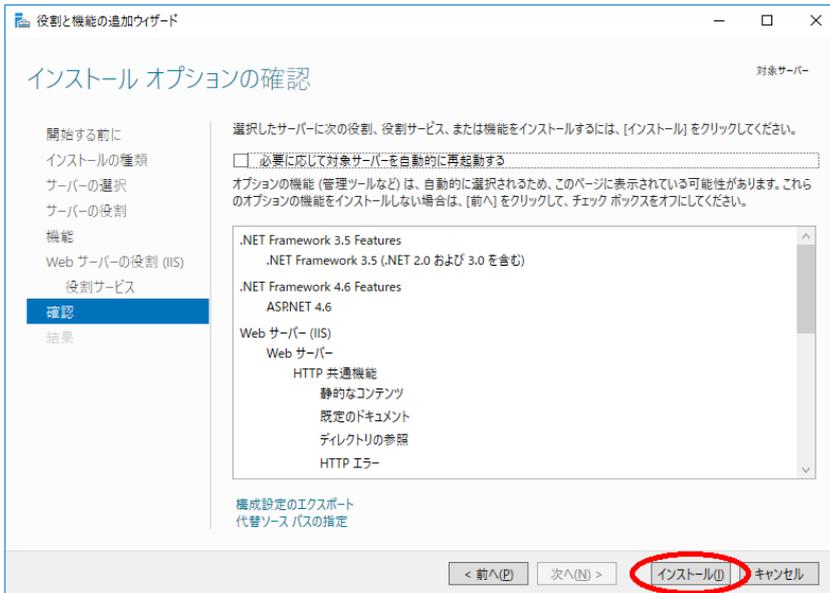
13. ポップアップ画面では、[機能の追加]をクリックします。



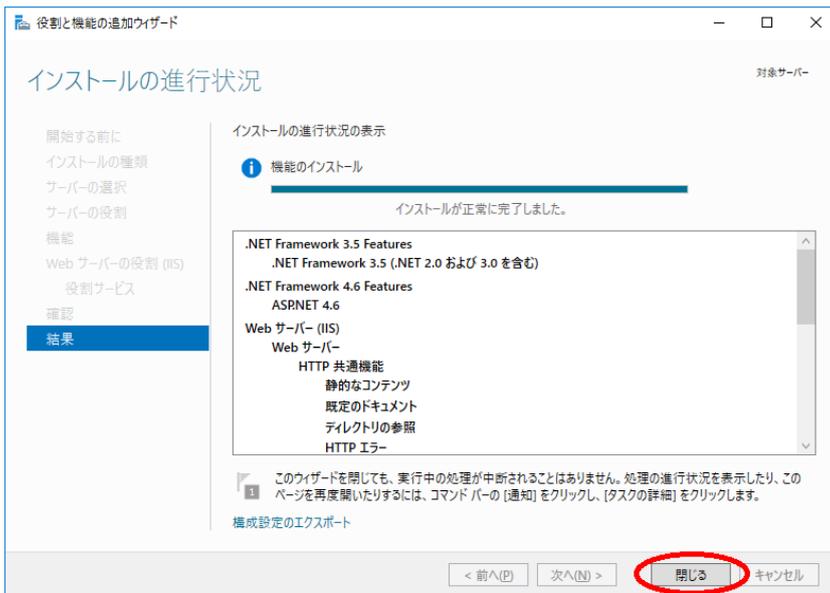
14. 役割サービスの選択に戻ると、[次へ]をクリックします。



15. インストールオプションの確認では、[インストール]をクリックします。



16. インストールの進行状況でインストールの完了を確認し、[閉じる]をクリックして終了します。



17. [サーバーマネージャー]を終了します。

データベースのインストール

本章は、SQL Server 2016 および SQL Server 2016 Express（以下、Express）について記述しています。

1. SQL Server 2016 のインストールを開始します。

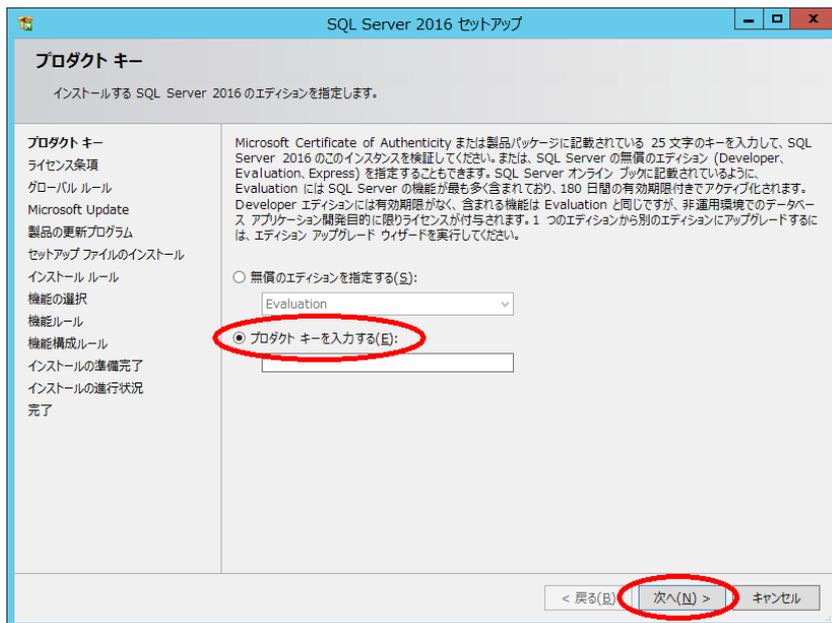
エディションや更新プログラムの適用状況により画面表示の有無に多少の違いがあります。

Express の初期画面では[カスタム]を選択して進めると以下の画面が表示されます。

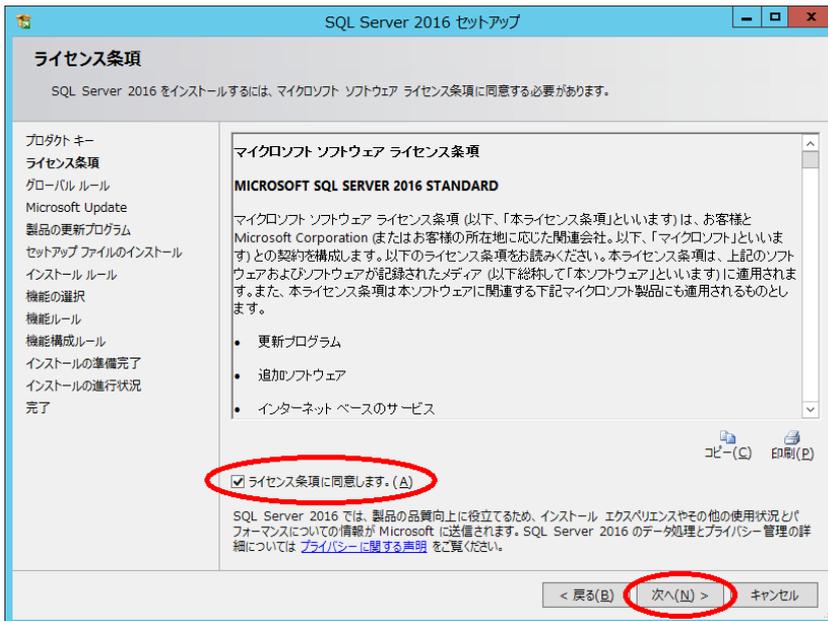
[インストール]より[SQL Server の新規スタンドアロンインストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加] をクリックします。



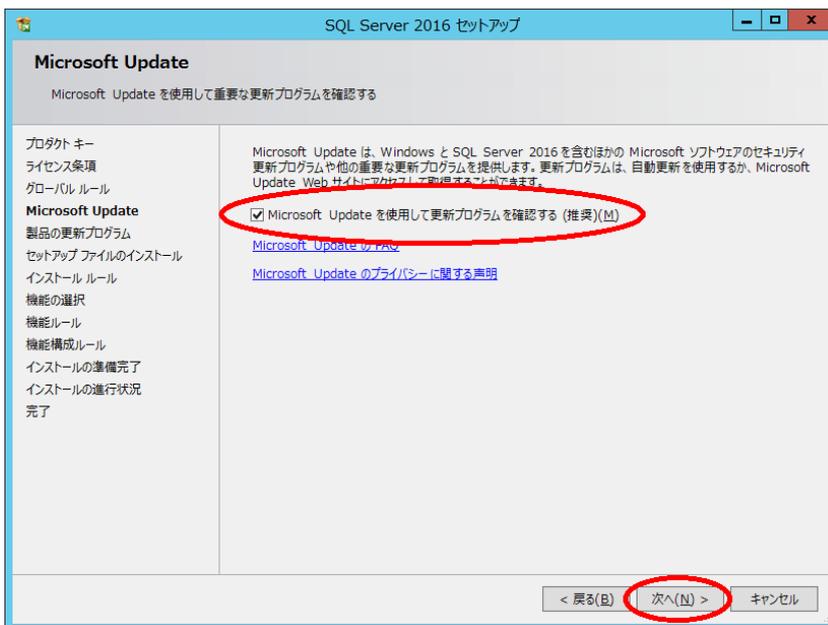
2. プロダクトキーでは、プロダクトキーを入力し、[次へ]をクリックします。



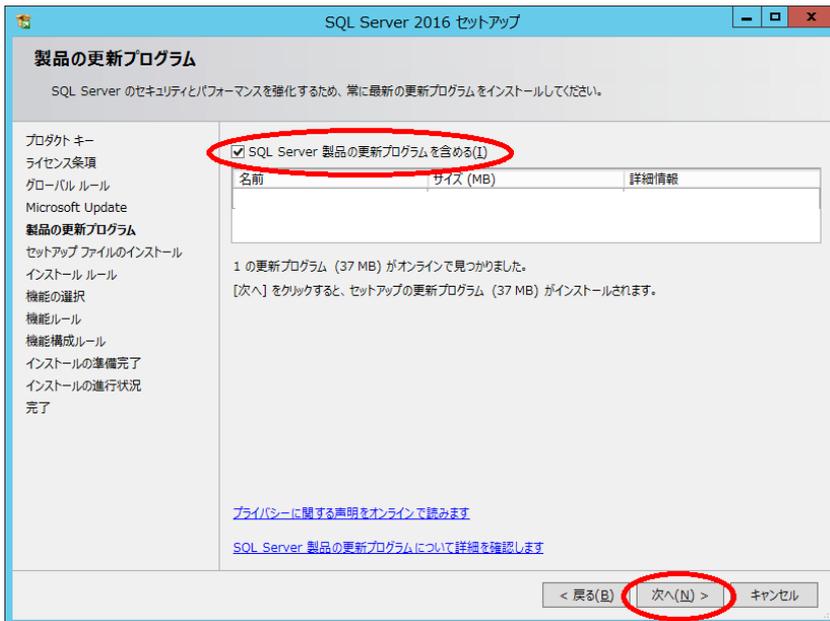
3. ライセンス条項では、[使用許諾契約書に同意します。]を選択し、[次へ]をクリックします。



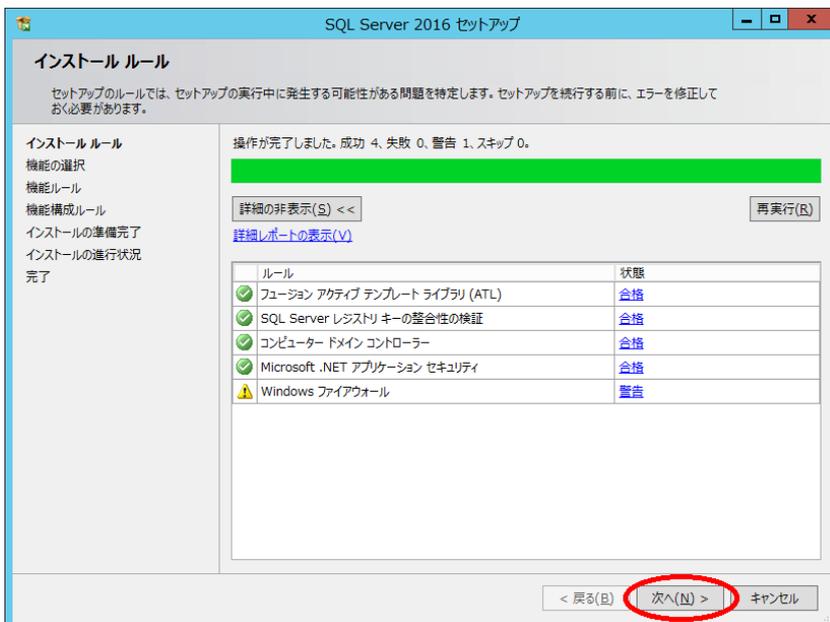
4. Microsoft Update では、[Microsoft Update を使用して更新プログラムを確認する]を選択し、[次へ]をクリックします。



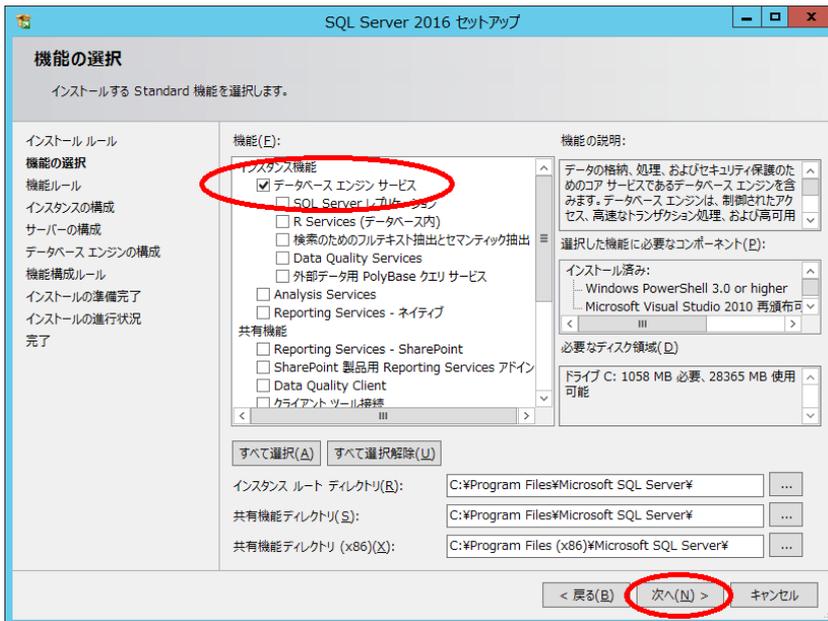
5. 製品の更新プログラムでは、[SQL Server 製品の更新プログラムを含める]を選択し、[次へ]をクリックします。



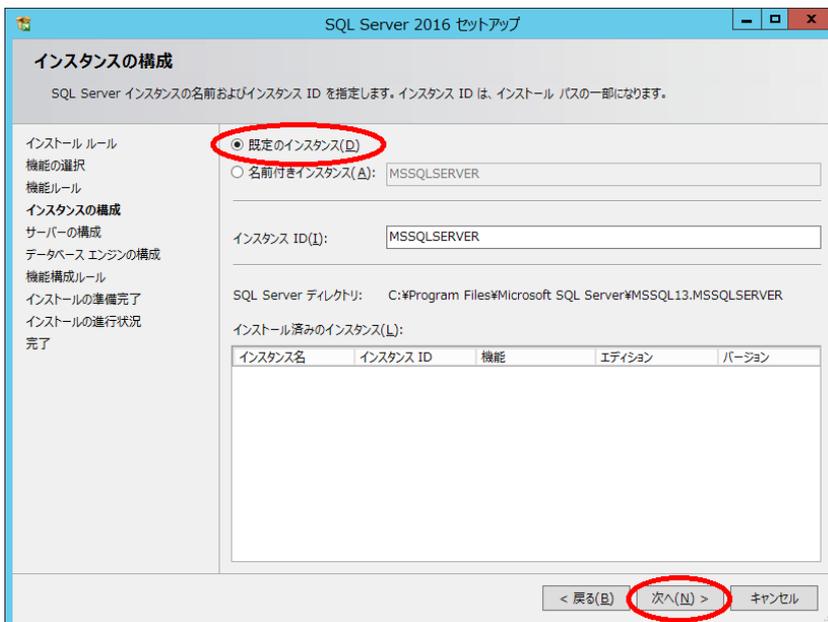
6. インストールルールでは、[次へ]をクリックします。



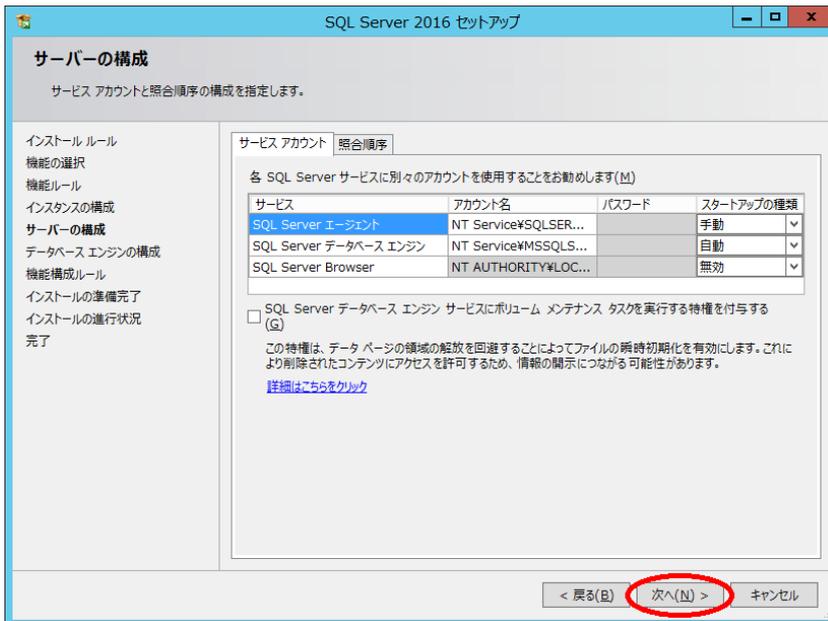
7. 機能の選択では、[データベースエンジンサービス]を選択し、[次へ]をクリックします。その他のコンポーネントは任意に追加してください。



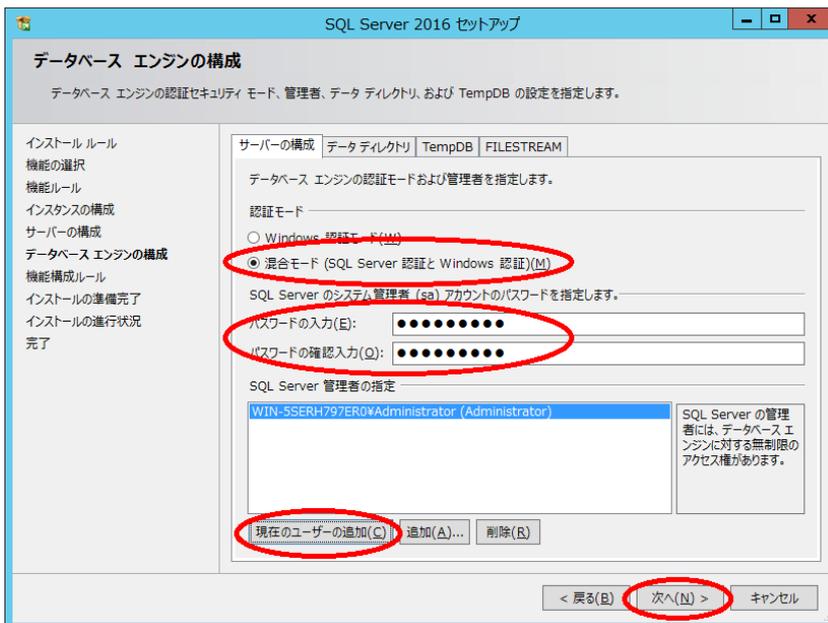
8. インスタンスの構成では、[既定のインスタンス]を選択し、[次へ]をクリックします。



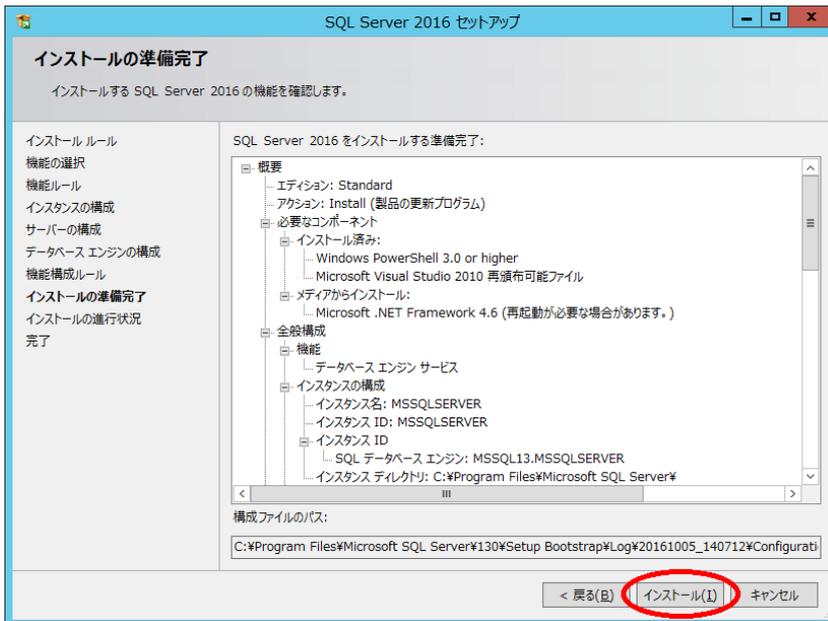
9. サーバーの構成では、[次へ]をクリックします。



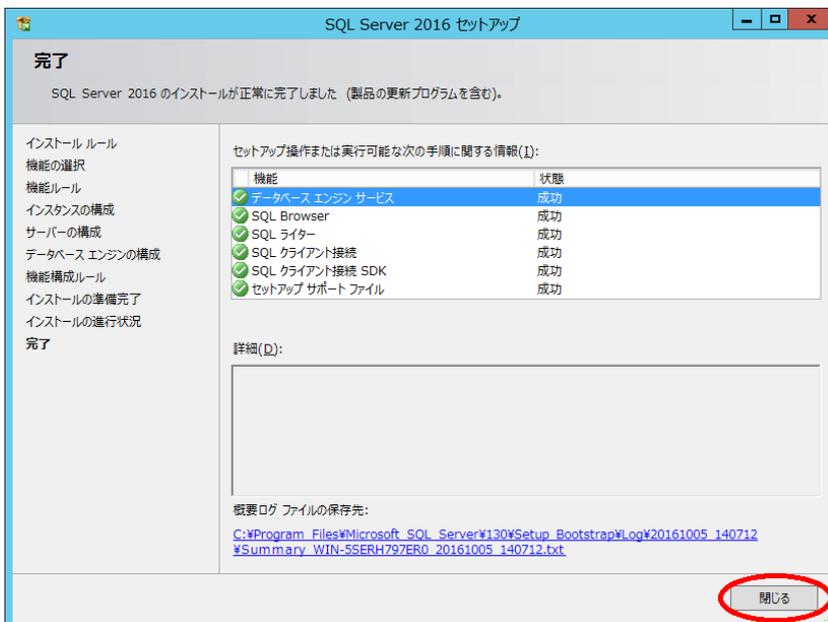
- データベースエンジンの構成では、[混合モード (SQL Server 認証と Windows 認証)] を選択、SQL Server のシステム管理者 (sa) アカウントのパスワードを入力、[現在のユーザーの追加] をクリックし、[次へ] をクリックします。



- インストールの準備完了では、[インストール] をクリックします。



12. 完了では、[閉じる]をクリックします。

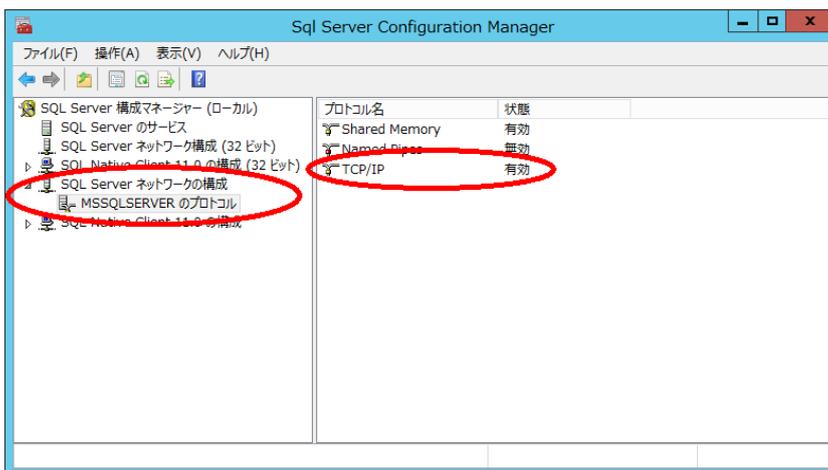


13. SQL Server Management Studio をインストールします。

SQL Server インストール センターから[SQL Server Management Tools のインストール]をクリックします。



14. ブラウザが開き、SQL Server Management Studio のダウンロードページが表示されます。ここから SQL Server Management Studio のインストーラーをダウンロードします。
15. ダウンロードしたインストーラーを実行すると SQL Server Management Studio がインストールされます。
16. [SQL Server 構成マネージャー] を起動します。
 左ペインの[SQL Server ネットワークの構成]を展開、[MSSQLSERVER のプロトコル]を選択、右ペインの[TCP/IP]が[有効]になっているか確認します。
 [有効]になっている場合は設定の必要はありません。[SQL Server 構成マネージャー]を終了後、「FormPat のインストール」へ進んでください。
 [無効]になっている場合は右ペインの[TCP/IP]を選択、[操作]→[有効化]を選択後、TCP/IP の状態が[有効]になったことを確認後、[SQL Server 構成マネージャー]を終了します。

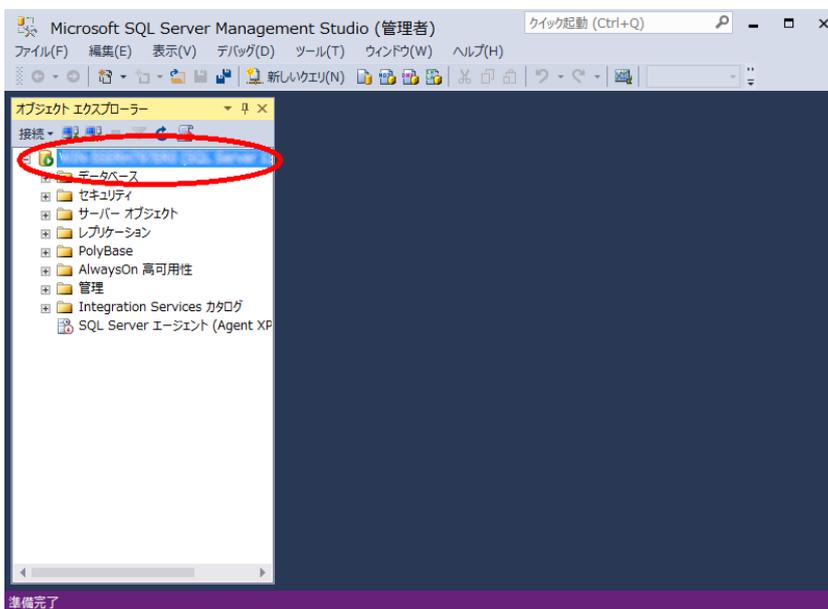


17. [SQL Server Management Studio] を起動します。
 サーバーへの接続では、認証に[SQL Server 認証]を選択、ログインに sa を入力、パスワードに「データベースのインストール」で設定したパスワードを入力後、[接続]をクリックします。



18. [オブジェクト エクスプローラー]からサーバー名を右クリックして[再起動]を選択します。

サービスの開始を確認後、[SQL Server Management Studio]を終了します。



FormPat プログラムフォルダの作成

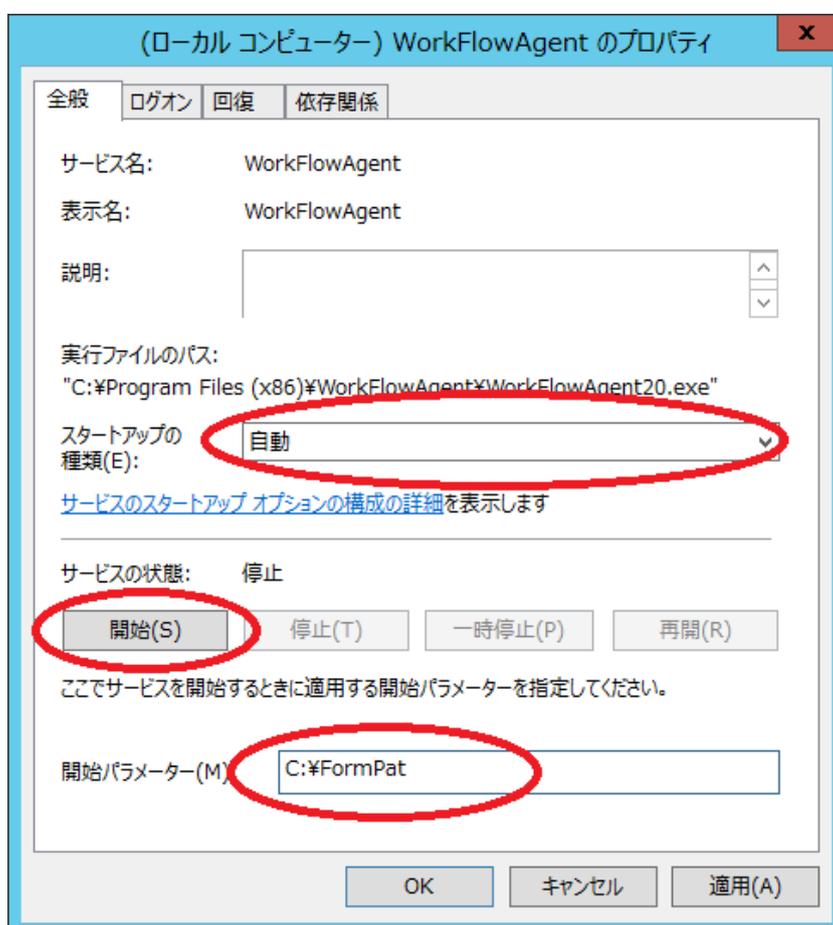
1. Digital Assist のホームページより「基本ソフト」FormPat_xxxx.zip (xxxx はバージョン) をダウンロードします。
2. FormPat_xxxx.zip を C:¥FormPat へ解凍します。
C:¥FormPat の変更も可能です。その場合、後の記述を変更内容に読み替えてください。

FormPat 承認期限監視サービスオプションのインストール

承認期限監視サービスは、オプションソフトウェアです。

オプション契約されていない場合は、「フォルダファイルのインストール」へ進んでください。

1. Digital Assist のホームページより「承認期限監視サービス」WorkFlowAgent_xxxx.zip (xxxx はバージョン)をダウンロードします。
2. WorkFlowAgent_xxxx.zip を任意のフォルダに解凍します。
3. 解凍後の WorkFlowAgent_xxxx.msi をダブルクリックして実行します。
4. インストーラーに従い、デフォルトのフォルダにインストールします。
5. [管理者ツール]から[サービス]を起動します。
6. サービスでは、WorkFlowAgent を選択後、[操作]→[プロパティ]を選択します。
7. WorkFlowAgent のプロパティでは、[スタートアップの種類]に[自動]を選択、[開始パラメータ]に FormPat フォルダ(C:¥FormPat)を入力し、[開始]をクリックします。

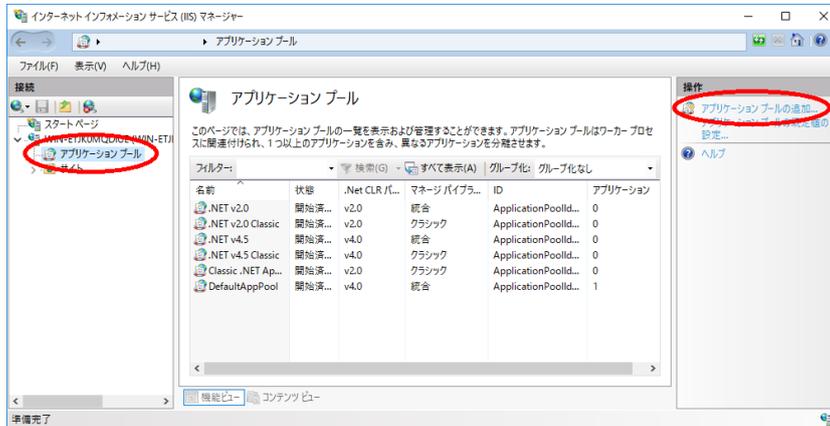


8. サービス開始後、[OK]をクリックします。
9. [サービス]を終了します。

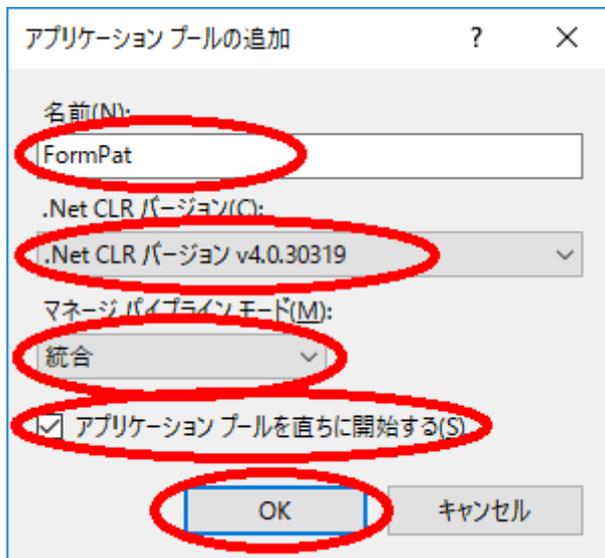
IIS の設定

本章では、Windows Server 2012 R2 および Windows Server 2012 について記述します。

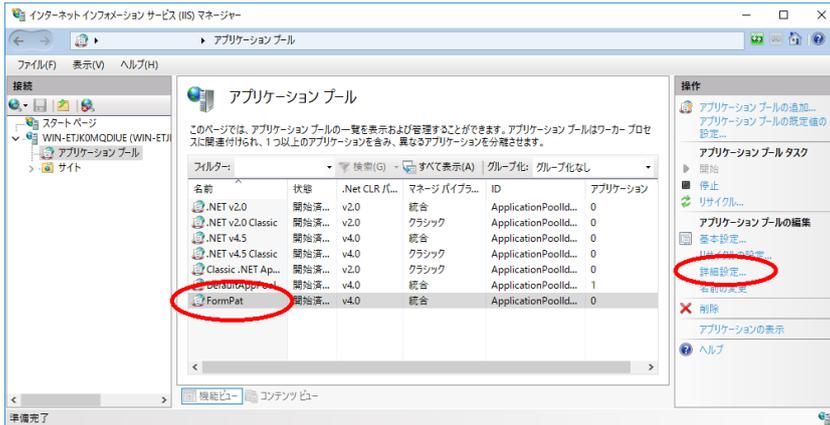
1. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を起動します。
2. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーでは、左ペインの[アプリケーションプール]を選択し、[アプリケーションプールの追加...]を選択します。



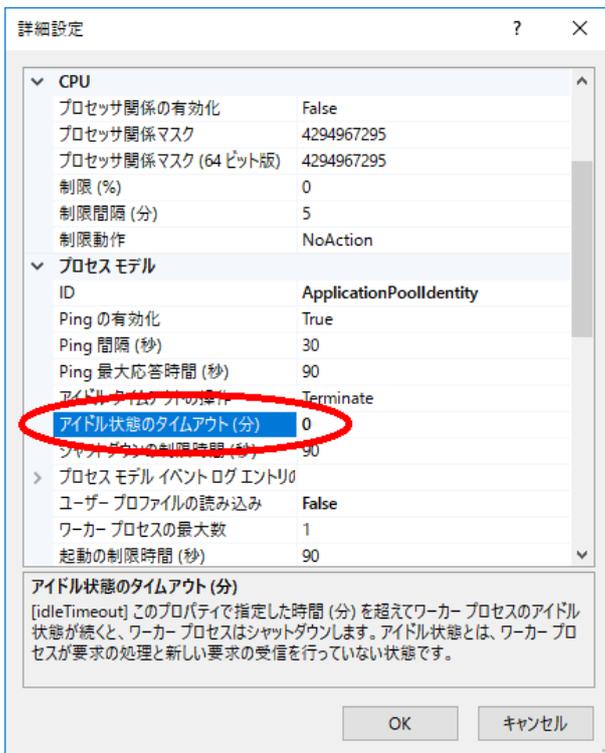
3. アプリケーションプールの追加では、[名前]に FormPat と入力、[.Net CLR バージョン]に[.Net CLR バージョン v4.0.30319]を選択、[マネージパイプラインモード]に[統合]を選択、[アプリケーションプールを直ちに開始する]にチェックが入っていることを確認後、[OK]をクリックします。



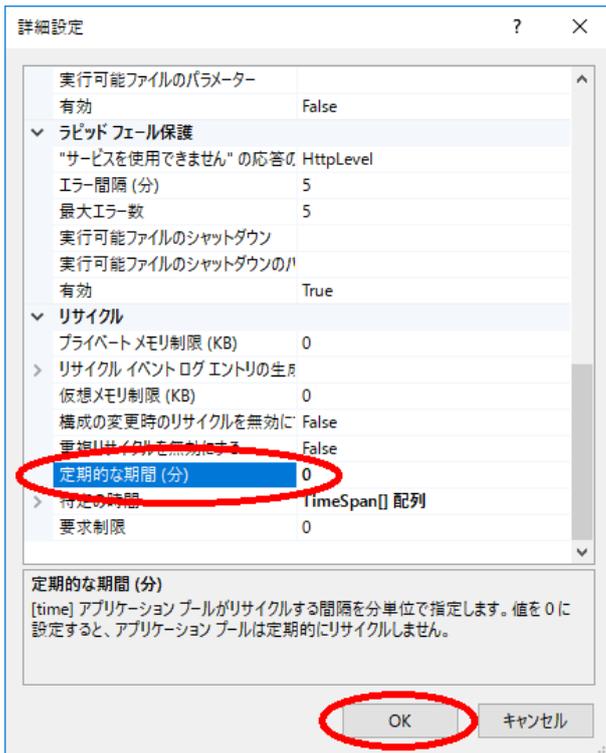
4. アプリケーションプールから[FormPat]を選択、 [詳細設定...]をクリックします。



5. 詳細設定では、[アイドル状態のタイムアウト]を 0 へ変更。



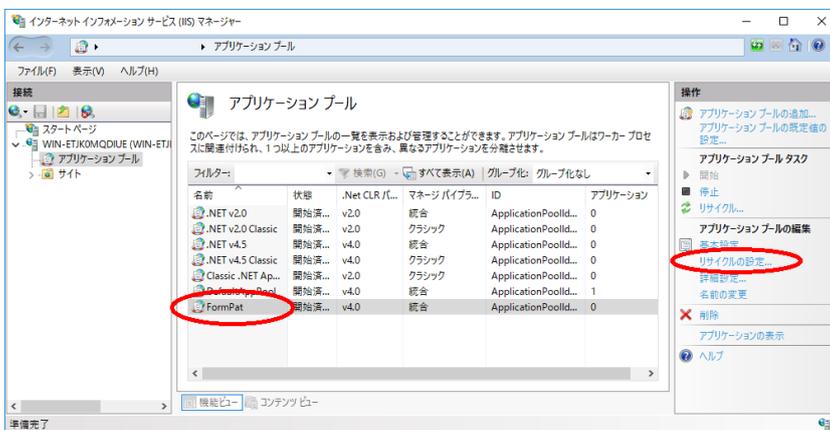
6. 続けて、[定期的な期間]を 0 に変更し、[OK]をクリックします。



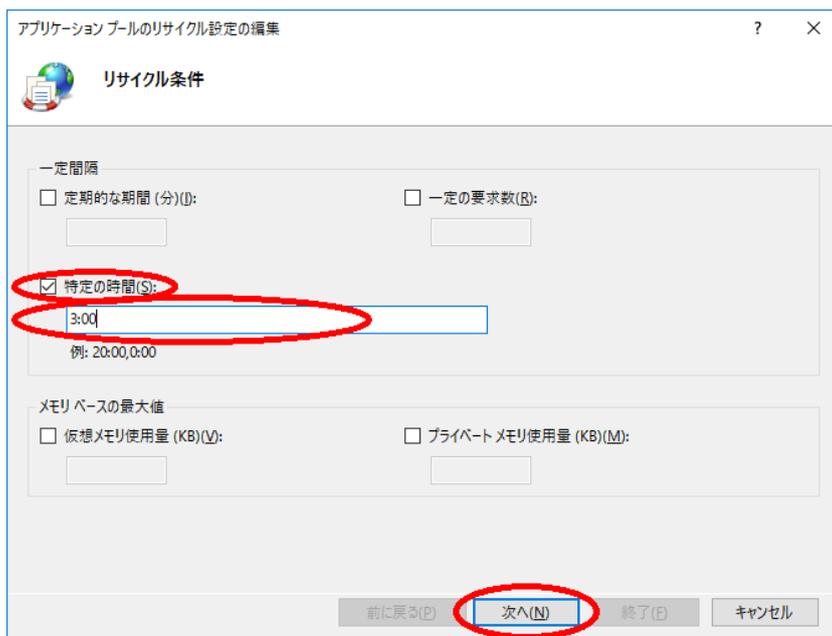
※Ver.5.1.0.0 からは Ver.5.0.4.0 以前に設定していた[32 ビット アプリケーションの有効化]は不要です。

7. 7.~9.は FormPat をより安定稼働させるために可能なら設定してください。

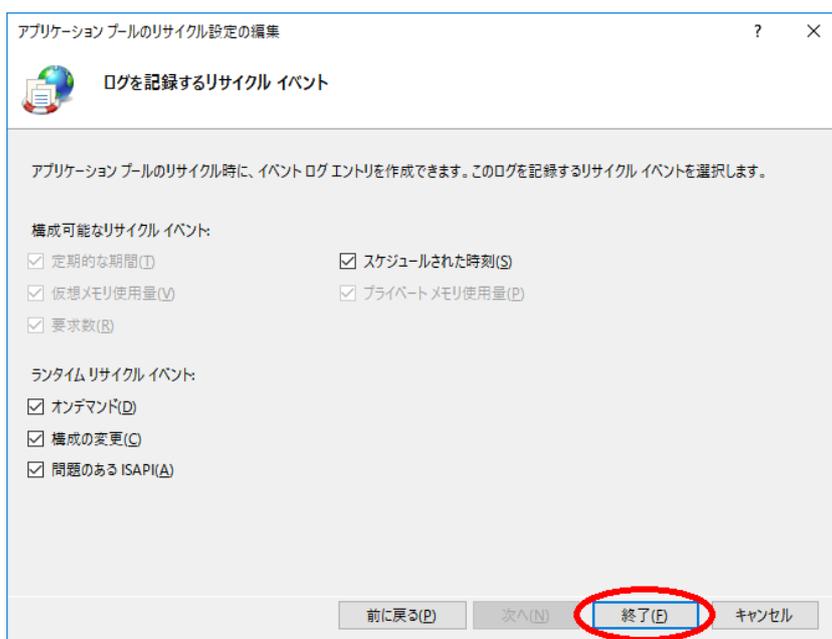
インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーの[FormPat]が選択された状態で[リサイクルの設定...]をクリックします。



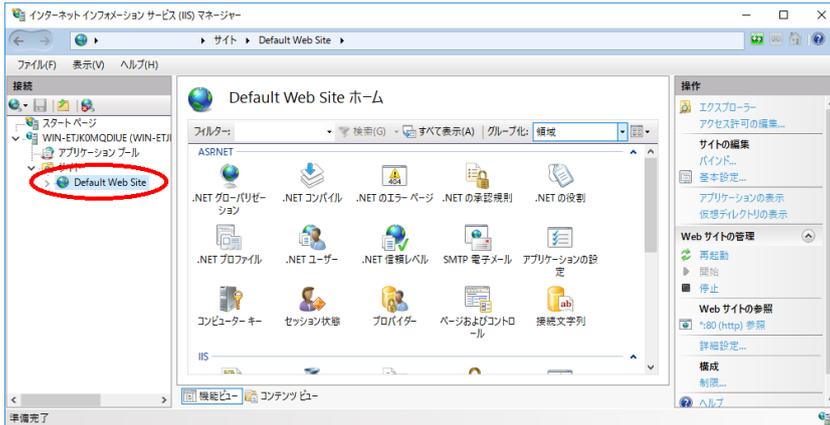
8. アプリケーションプールのリサイクル設定の編集では、[特定の時間]をチェックし、サーバーが作動中で FormPat を利用しない時刻を入力後、[次へ]をクリックします。



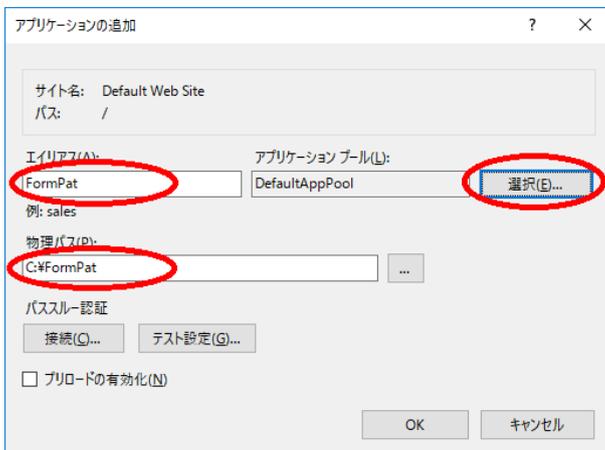
9. アプリケーションプールのリサイクル設定の編集の次の画面では、[終了]をクリックします。



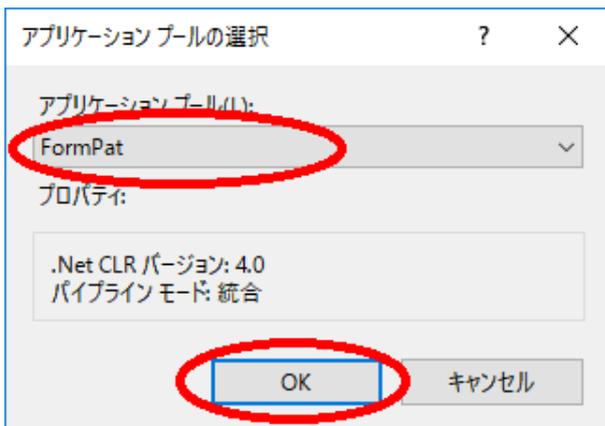
10. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーの左ペインの[サイト]を展開し、[Default Web Site]を右クリックし、[アプリケーションの追加]を選択します。



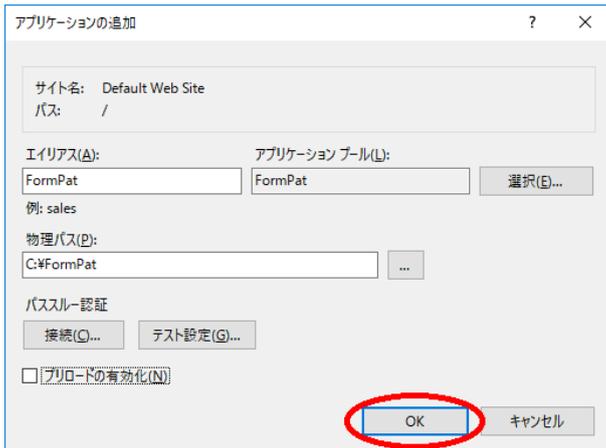
11. アプリケーションの追加では、[エイリアス]に FormPat 、[物理パス]に C:¥FormPat と入力し、[選択...]をクリックします。



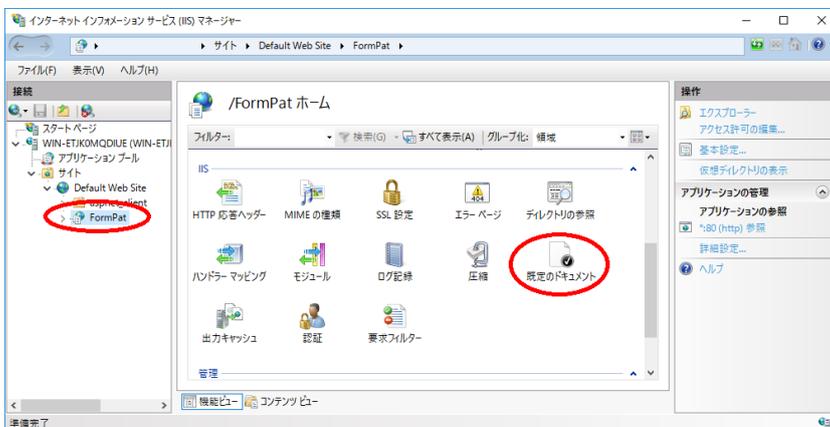
12. アプリケーションプールの選択では、[アプリケーションプール]に[FormPat]を選択し、[OK]をクリックします。



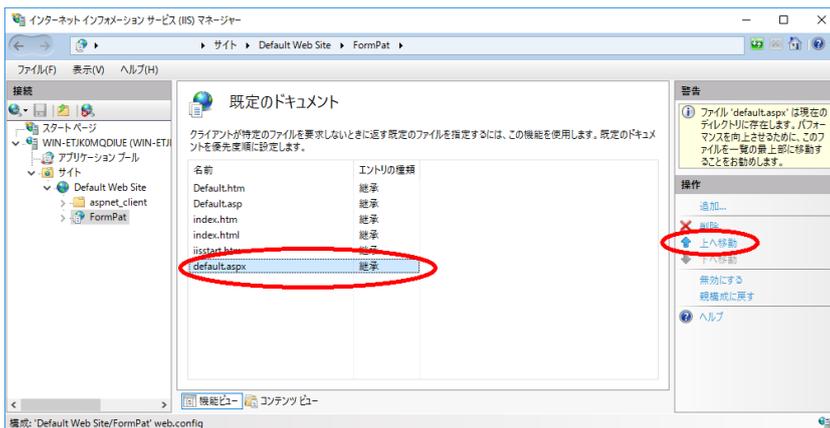
13. アプリケーションプールの追加では、[OK]をクリックします。



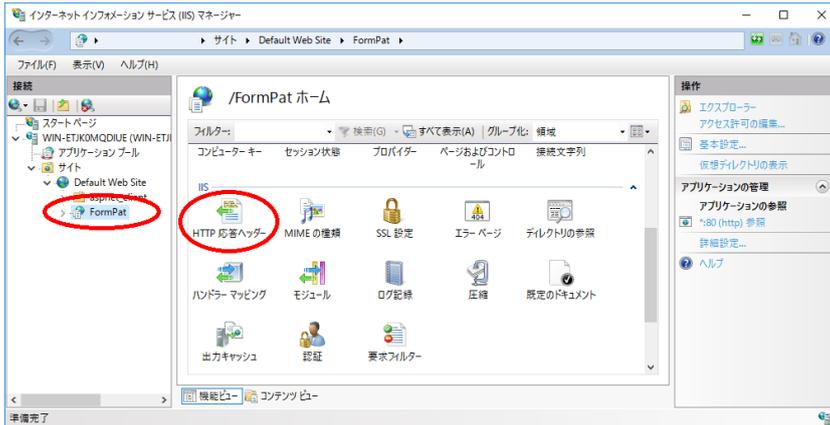
14. 左ペインの[FormPat]を選択し[/FormPat ホーム]の[既定のドキュメント]をダブルクリックします。



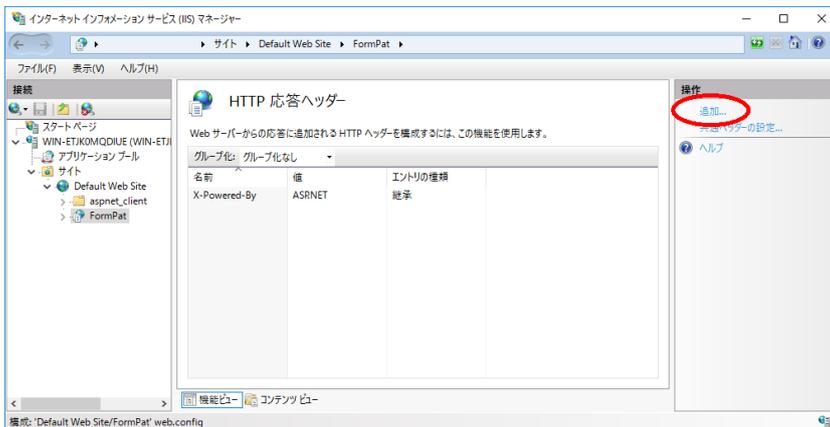
15. [既定のドキュメント]の[default.aspx]を選択し、[上へ移動]をクリックして[default.aspx]を最上段に移動します。（もし default.aspx が存在しない場合、[追加]をクリックして default.aspx を追加して最上段に移動します。）



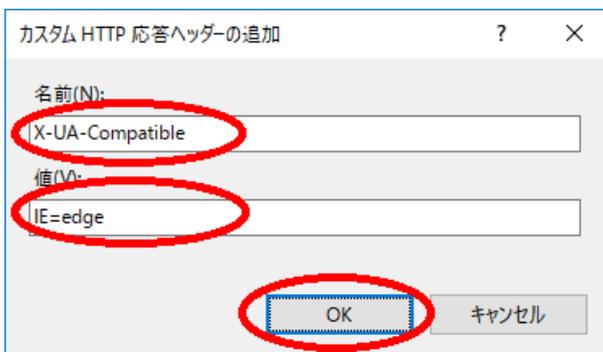
16. イン트라ネットで使用されるとき以下の設定を行います。
IE の既定ではイントラネットサイトを表示すると互換表示になります。
FormPat は互換表示では正常に動作しませんので互換表示を無効にします。
[/FormPat ホーム]に戻り[HTTP 応答ヘッダー]をダブルクリックします。



17. [HTTP 応答ヘッダー]の[追加...]をクリックします。



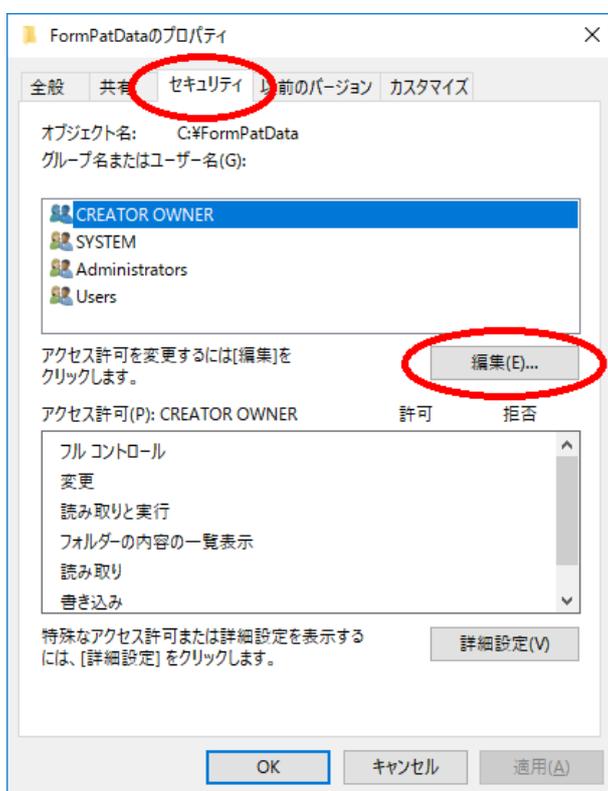
18. カスタム HTTP 応答ヘッダーの追加では、[名前]に X-UA-Compatible 、[値]に IE=edge と入力し、[OK]をクリックします。[HTTP 応答ヘッダー]に入力値が追加されます。



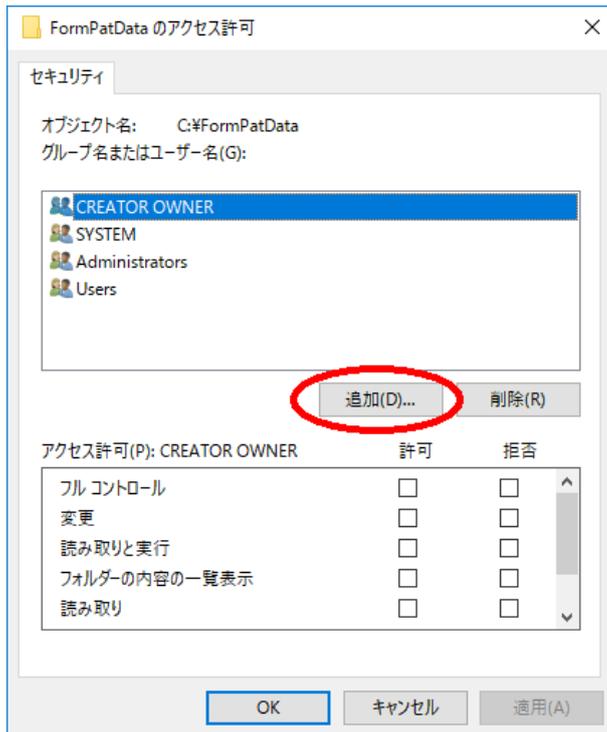
19. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を終了します。

FormPat データフォルダの作成

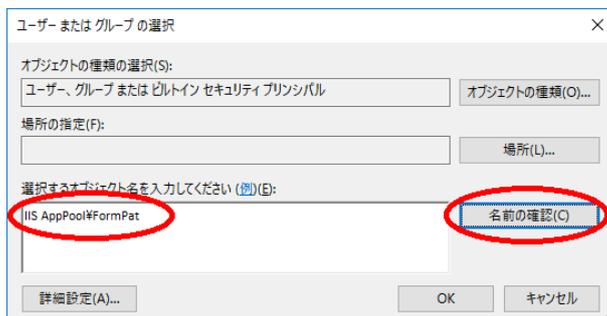
1. Digital Assist のホームページより「フォルダファイル」FormPatData_xxxx.zip (xxxx はバージョン)をダウンロードします。
2. FormPatData_xxxx.zip を C:¥FormPatData へ解凍します。
C:¥FormPatData の変更も可能です。その場合、後の記述を変更内容に読み替えてください。
3. [エクスプローラー]を起動します。
4. エクスプローラーでは C:¥FormPatData を右クリックし「プロパティ」を選択します。
5. FormPatData のプロパティでは、「セキュリティ」タブを選択、[編集...]をクリックします。



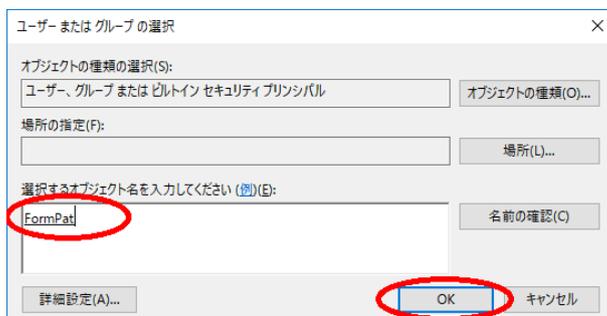
6. FormPatData のアクセス許可では、[追加...]をクリックします。



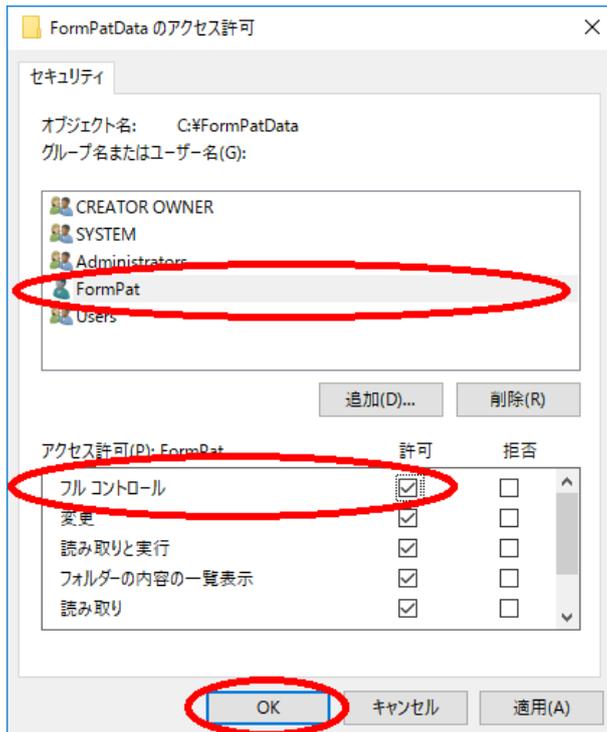
- ユーザーまたはグループの選択では、[選択するオブジェクト名を入力してください]に IIS AppPool\FormPat と入力し、[名前の確認]をクリックします。



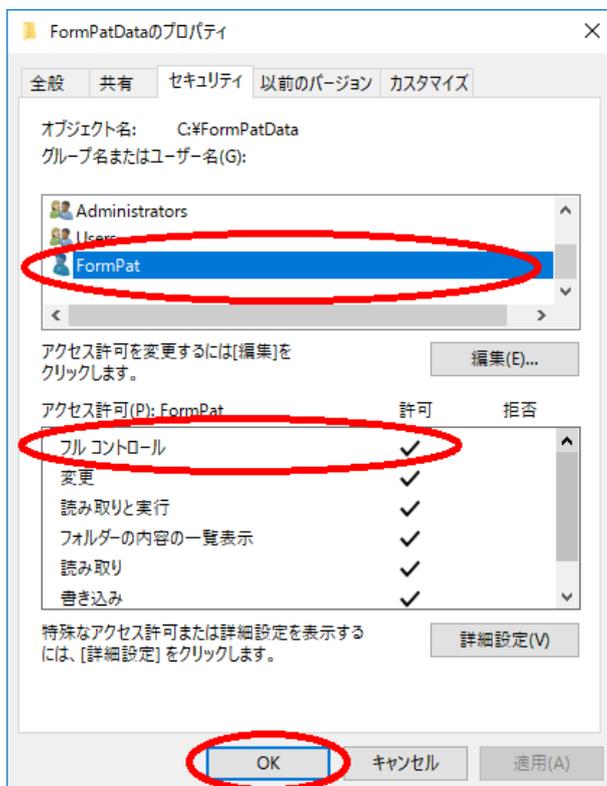
- [選択するオブジェクト名を入力してください]に FormPat と表示されたことを確認し、[OK]をクリックします。



- FormPatData のアクセス許可に戻ると、[FormPat]を選択、[フルコントロール]の[許可]のチェックボックスをクリック、[OK]をクリックします。



10. FormPatData のプロパティに戻ると、[FormPat]を選択、[フルコントロール]の[許可]がチェックされていることを確認し、[OK]をクリックします。



11. [コマンド プロンプト]を起動します。
12. コマンド プロンプトでは、フォルダ追加作成のバッチファイルを実行します。

C:\FormPatData\folder.bat

FormPatData フォルダ内に att、data、esd、form、image、temp、tempimport の 7 フォ

ルダが作成されていることを確認します。

13. [コマンドプロンプト]を終了します。
14. FormPatData フォルダ内の folder.bat は今後使用しませんので削除しても問題ありません。
15. [エクスプローラー]を終了します。

データベースの設定

1. [コマンド プロンプト]を起動します。
2. コマンド プロンプトでは、以下のデータベース作成のバッチファイルを実行します。
`osql -U sa -P password -i C:¥FormPatData¥database.sql`
password は データベースのインストール時に[SQL Server のシステム管理者 (sa)]に指定したパスワードです。
3. データベースの作成が終了後、[コマンドプロンプト]を終了します。
4. FormPatData フォルダ内の database.sql は今後使用しませんので削除しても問題ありません。

[参考]

既存インスタンス以外にデータベースを作成する場合、5. のコマンドに
`-S Server 名¥instance 名`
を追加してください。

システム環境ファイル(control.config)の設定

運用中システムの環境ファイルの変更は、ユーザーがログインしていない状態で行ってください。

1. [メモ帳]のメニューから[ファイル]→[開く]を選択し、C:¥FormPat¥control.config を開きます。

導入環境により環境ファイルのデフォルト値を変更してください。

下記以外の項目詳細については「環境ファイル・リファレンスガイド」を参照してください。

2. データフォルダのパス

既定のインストール先へデータフォルダをインストールした場合、この設定の必要はありません。次へ進んでください。

```
<path>C:¥FormPatData¥</path>
```

C:¥FormPatData¥ はフォームデータを格納するフォルダを絶対パスで設定します。

3. 電子メール機能の有無

```
<smtp_on>0</smtp_on>
```

0 はワークフローで申請データ受信時の電子メール機能を利用しない場合は 0 、利用する場合は 1 を設定します。

FormPat 運用中に設定変更したときは、ユーザー毎の再ログインが必要です。

4. メール送信の環境

```
<smtp_auth>mode=0;ssl=0;smtp_server=smtp.domain.co.jp;smtp_port=25;pop3_server=pop3.domain.co.jp;pop3_port=110;uid=account;pwd=accountPwd;sender_address=id@domain.co.jp</smtp_auth>
```

電子メール機能を利用する場合はメール送信環境を設定します。電子メール機能を利用しない場合は変更不要です。

mode=0 はメールサーバーの SMTP 認証方式を設定します。SMTP 認証の必要ない場合は 0、「AUTH-PLAIN」認証方式は 1、「AUTH-LOGIN」認証方式は 2、「AUTH-CRAM-MD5」認証方式は 3、「POP before SMTP」認証方式は 4 を設定します。

ssl=0 は SSL/TLS を使用しない場合は 0、使用する場合は 1 を設定します。メールの送信元は 0 ならユーザー登録の先頭のメールアドレスから(承認期限監視からのメールを除く)、1 なら id@domain.co.jp からになります。

smtp.domain.co.jp は SMTP サーバー名を設定します。

25 は SMTP ポート番号を設定します。(すべての認証方式で設定が必要です。)

pop3.domain.co.jp は POP3 サーバー名を設定します。(mode=4 のときのみ設定が必要です。)

110 は POP3 ポート番号を設定します。(mode=4 のときのみ設定が必要です。)

account は SMTP 認証のアカウント名を設定します。(mode=1 or 2 or 3 or 4 のとき設定が必要です。)

accountPwd は SMTP 認証のパスワードを設定します。(mode=1 or 2 or 3 or 4 のとき

設定が必要です。)

id@domain.co.jp はメール送信を行うメールアドレスを設定します。

5. データベースの環境

```
<database>server=127.0.0.1;uid=sa;pwd=password;Initial Catalog=FormPat</database>
```

127.0.0.1 はサーバー運用ならデータベースのホスト名または IP アドレスを設定します。

当ガイドのデフォルト表記のままインストールされた場合は変更不要です。

SQL Server が名前付きインスタンスの場合、ホスト名または IP アドレスに続けて ¥ とインスタンス名を設定します。(例)server=127.0.0.1¥インスタンス名

password はログイン名のパスワードです。

データベースのインストールで入力したパスワードを設定します。

Initial Catalog=FormPat は変更不要です。

6. 統合 Windows 認証

```
<authentication>0</authentication>
```

0 は FormPat ログイン認証に、統合 Windows 認証を利用するか設定します。

統合 Windows 認証を使用しない場合は 0、使用する場合は 1 を設定します。

FormPat 導入時は、0 を設定します。統合 Windows 認証は FormPat 導入処理完了後、設定してください。

詳しくは「統合 Windows 認証について」を参照してください。

7. SSL の有無

0 はサーバーに SSL を導入しない場合は 0、導入する場合は 1 を設定します。

FormPat 独自のカメラ機能を貼付画像・手書きサイン・OCR で有効にするには SSL の導入が必要です。導入方法については SSL 認証局の情報を参考にしてください。

8. [メモ帳]のメニューから[ファイル]→[上書き保存]を選択し、[メモ帳]を終了します。

FormPat の動作確認

ブラウザを起動してアドレスに `http://127.0.0.1/FormPat/` と入力してください。

FormPat のログイン画面が表示されると環境設定は完了です。

なお、ログイン画面で「バージョン情報を更新してください。」と表示された場合、[バージョン情報]ボタンをクリック後、[バージョン更新]ボタンをクリックしてください。

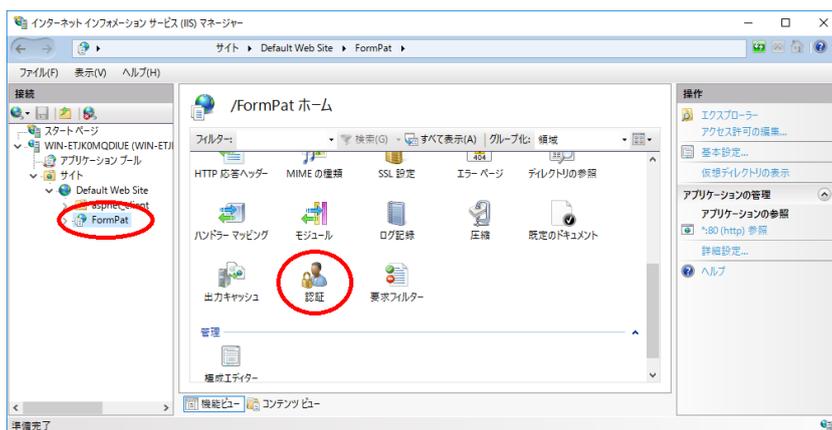
統合 Windows 認証について

本章では、Windows Server 2016 について記述します。

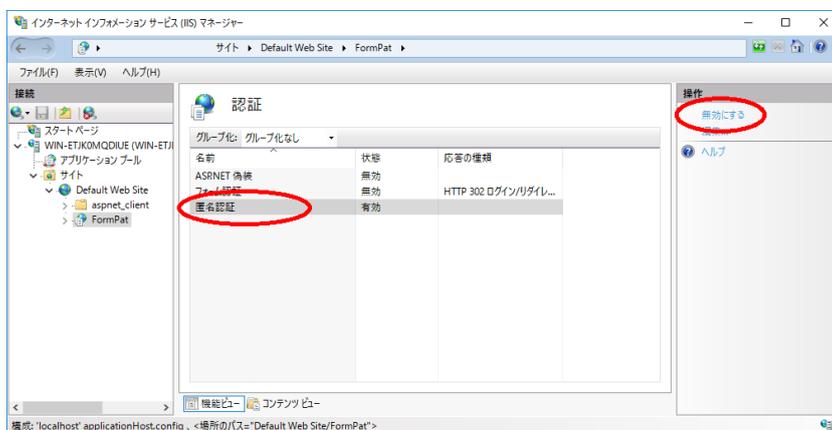
FormPat のログイン認証に加えて、統合 Windows 認証に対応しています。

統合 Windows 認証を利用することで、Windows へログインしていると FormPat へのログインを省くシングルサインオンが可能になります。

1. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を起動します。
2. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーでは、左ペインのツリーを展開、[FormPat] を選択し、[認証]をダブルクリックします。



3. [認証]ページでは、[匿名認証]→[無効にする]を選択します。



4. [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー]を終了します。
5. [メモ帳]を起動します。
メモ帳では、メニューから[ファイル]→[開く]を選択し、control.config を開きます。
デフォルトのファイルの場所は C:¥FormPat¥control.config です。
6. control.xml から下記の記述を検索します。
`<!-- 統合 Windows 認証(0:無, 1:有) -->`
`<authentication>0</authentication>`
0 を 1 に変更します。
7. メモ帳のメニューから[ファイル]→[上書き保存]を選択します。
8. [メモ帳]を終了します。

統合 Windows 認証が有効な場合、ログインは以下の通りとなります。

- ・ドメインアカウントを保有しているユーザー
 1. [http://\(コンピューター名等\)/FormPat/](http://(コンピューター名等)/FormPat/) にアクセスします。
 2. 統合 Windows 認証が正常に終了した場合はメニューページが表示されます。
統合 Windows 認証が失敗した場合はログインページが表示されます。
 - 3.
- ・ドメインアカウントを保有していないユーザー
 1. [http://\(コンピューター名等\)/FormPat/?na=1](http://(コンピューター名等)/FormPat/?na=1) にアクセスします。
[?na=1](#) は統合 Windows 認証が有効な場合でも、統合 Windows 認証を行わずにログインページを表示するためのパラメータです。ドメインアカウントを保有していないユーザーが混在する場合、保有していないユーザーからのアクセスにはパラメータを付加したアドレスを使用してください。
 2. 統合 Windows 認証ダイアログが表示されます。
事前に作成しておいた Windows の汎用的なアカウントでログインします。
 3. ログインページが表示されます。FormPat のユーザーID でログインします。

OCR オプションについて

OCR オプションを契約されている場合は、「Visual Studio 2015 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ」のインストールが必要です。

インターネットより 64bit 版 (x64) プログラムをダウンロード、インストールしてください。

インポートオプションについて

インポートオプションをご契約の場合、CSV 形式のファイルを FormPat へ取り込む機能をご提供します。

インポートオプションの実行ファイルは C:\%FormPat%\import\CsvImport.exe にあります。

CsvImport.exe をダブルクリックすると実行します。

また、操作手順は C:\%FormPat%\import\index.html を参照してください。

これらのファイルは必要に応じてショートカットを作成してご利用ください。

C/S 環境でクライアント PC にインポート実行ファイルを置いてクライアント PC から

FormPat サーバーへインポートを実行することも可能です。

以下に、導入手順を記述します。

1. クライアント PC に適当な名前のフォルダを作成します。
以降は C:\%FormPat%\import フォルダを作成したとして記載します。実際に作成されたフォルダ名に置き換えてください。
2. FormPatImport フォルダの下に exe フォルダを作成します。
3. exe フォルダに FormPat サーバーの C:\%FormPat%\import フォルダ内のファイル一式をコピーします。
4. FormPatImport フォルダの下にインポート用一時作業フォルダ tempimport を作成します。
5. FormPatImport フォルダに FormPat サーバーの C:\%FormPat%\control.config をコピーします。
6. [メモ帳]のメニューから[ファイル]-[開く]を選択し、FormPatImport フォルダの control.config を開きます。
7. control.config のデータフォルダのパスを変更します。
<addr_abs_data>C:\%FormPat%\Data\data%\</addr_abs_data>
C:\%FormPat%\Data\data% の部分を %%サーバー名\data% へ変更します。
8. フォームフォルダのパスを変更します。
<addr_abs_form>C:\%FormPat%\form%\</addr_abs_form>
C:\%FormPat%\form% の部分を %%サーバー名\form% へ変更します。
9. インポートテンポラリフォルダのパスを変更します。
<addr_abs_import>C:\%FormPat%\tempimport%\</addr_abs_import>
C:\%FormPat%\tempimport% の部分を c:\%FromPatImport%\tempimport% へ変更します。
10. データベースの環境を確認します。
<database>server=127.0.0.1;uid=sa;pwd=password;Initial Catalog=FormPat</database>
127.0.0.1 はデータベースのホスト名または IP アドレスを設定します。
sa はログイン名を設定します。
デフォルトでインストールされた場合は変更不要です。

`password` はログイン名のパスワードです。

データベースのインストールで入力したパスワードを設定します。

Initial Catalog=FormPat は変更不要です。

11. control.config の上記以外のタグはインポートオプションでは使用しません。
12. [メモ帳]のメニューから[ファイル]→[上書き保存]を選択し、[メモ帳]を終了します。
13. クライアント PC からサーバーへのアクセスを可能にするため、FormPat のデータおよびフォームを保存しているフォルダへ共有設定とアクセス許可設定が必要です。
サーバーの C:\FormPatData\data フォルダおよび C:\FormPatData\form フォルダにユーザーの共有の設定と「読み取り」および「書き込み」のアクセス許可の設定を行ってください。
14. クライアント PC からのインポートの設定は以上で終わりです。